

西川裕町長 × 塩崎清乃・西平嵩

いよいよ2011年もスタートです。今年はどうのような年になるのでしょうか。さて、新春号の恒例となったこの対談企画。今回、町長と対談するのは、今年の年男・年女でもあるフレッシュな役場の新人職員の2人です。

昨年、爽風・薫風・風ん子の3体の彫刻の金箔張替えなども行い、新たなスタートを切った「緑と彫刻のあるまちづくり」をメインテーマに、大いに語っていただきました。

緑と彫刻のあるまちづくりのこれまでとこれから

【はじめに】

塩崎 2011年はどのような年になるとお考えですか。

町長 国の三位一体の改革やリーマンショックなどもあって日本全体が疲弊しています。特に地域を取り巻く現状は非常に厳しいですね。国でも様々な景気対策が打たれていますが、これがすぐに好転することは難しいでしょう。今年も経済情勢等は厳しくなると思いますが、ひとつ光があるとすれば九州新幹線の全線開業でしょうか。この効果を最大限活かす工夫が必要になると思います。

西平 新幹線開業効果を活かすためにはどのようなことが必要でしょうか。

町長 そうですね。開業効果に関して言えば観光面での取り組みが重要になるでしょう。これをトータルでやっていくことが

必要だと思います。例えば重盤岩を核として四季彩や美術館や様々な資源を活用しながら町の魅力を創出していく。おいしい食べ物やおみやげ物の開発などもあるでしょう。さらには町全体

の雰囲気とか、おもてなしの心もあるかな。そういったことに町全体で取り組んでいくことが大切なんじゃないでしょうか。

西平 観光面の話で言うと、町長が津奈木町の中でお気に入り入りのスポットはどこですか。

町長 全部好きですよ。僕は津奈木町が大好きだからね。この間も東京に1週間ほど仕事で行きましたが、2日目には帰りたい気持ちでいっぱいでした。自然や風景もそうだけど、人々とのコミュニケーションがあるでしょ。笑顔やあいさつ、そこには温もりがありますね。

西平 確かにそうですね。お金

で買えない価値(笑)があるというか。

町長 住んでる人の心にゆとりがあつたりとか、そういうことだと思います。心の豊かさということですね。これは今の日本社会全体が失いつつある一番大事なものだと思います。だからこそ、今後も町民のふれあいを大事にしながら、地域の活力を再生・創造していけるようなまちづくりを進めていきたいですね。

【緑と彫刻のあるまちづくりについて】

塩崎 昨年は野外彫刻・爽風、薫風、風ん子の3体の金箔の張り替えもありました。まさに緑と彫刻のあるまちづくりの再スタートの年になったかと思えます。まずはこれまでの取り組みについて、町長の『思い』の

部分や苦労したお話などをお聞かせください。

町長 はじめにこれまでの取り組みを振り返ってみましょうか。はじめは昭和59年、この役場庁舎ができたころです。当たり前の話ですが、役場というのは、職員のものではなくて町民の皆様が館なんです。だから役場においてになった方が少しでもゆつくりとできるような空間にしようという思いがありました。最初は絵画を寄付していただいて階段などに飾るようになった。庭園もそうですね。こんなに手入れの行き届いている庭づくりをしているところはないと思いますよ。それから本町を含む水俣・芦北地域は水俣病という世界的にも類をみない公害が発生した場所です。

